

京都外国語大学 ラテンアメリカ研究所 紀要

2019

<論文>

- ヤシュチランの鳥ジャガー大王の政敵
..... 金子 明 1
- メキシコにおける「慣習」による先住民行政区選挙
..... 小林 致 広 25

<研究ノート>

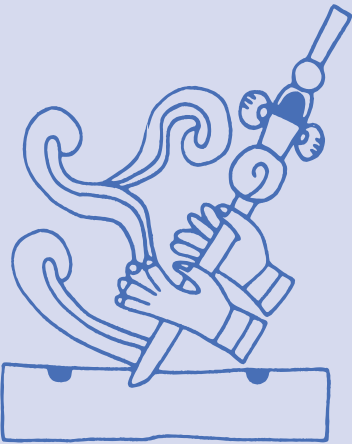
- 戦前日本におけるラテンアメリカ研究（I）
—江戸期・明治期・大正期における先行研究を中心にして—
..... 辻 豊 治 49

<書評>

- 井村俊義著『チカーノとは何か—境界線の詩学』
..... 牛 島 万 65

<史料紹介>

- フランシスコ・ハビエル・アレグレ著『ヌエバ・エスパーニャのイエズス会管区史』
..... 桜 井 三 枝 子 69



〈史料紹介〉

フランシスコ・ハビエル・アレグレ著
『ヌエバ・エスパーニャのイエズス会管区史』
(Francisco Javier Alegre, *Historia de la Provincia de la Compañía de Jesús de Nueva España*, 4 vols., edición de Ernest J. Burrus y Felix Zubillaga, Roma, Institutum Historicum Societatis Jesu, 1956)

桜井三枝子*

数十年前のことであるが、筆者は上智大学キリシタン文庫元所長・尾原悟神父から、メキシコのイエズス会布教に関わるスペイン語で記された図書10巻を渡された。尾原師が2016年に逝去され、その追悼ミサに参加するにおよび、師から渡された蔵書の存在が気になり始めた。大阪経済大学を定年退職するまで、筆者はマヤ文化地域の祝祭儀礼を文化人類学的視点から研究調査してきたが、現代の祝祭儀礼の理解を深めるには植民地時代のカトリック布教に関わる歴史的プロセスを知る必要があると考え、本書の頁を繰ることになった。託された10巻のうちの最初の4巻が今回紹介する *Historia de la Provincia de la Compañía de Jesús de Nueva España* で、残る6巻は *Monumenta Mexicana* である。フランシスコ会(1523年)、ドミニコ会(1526年)、アウグスティヌス会(1533年)に遅れ、1572年にメキシコ布教を開始したイエズス会は、先行修道会の布教地と重ならないように、メキシコ中西部と北部辺境地帯およびカリフォルニア半島へと布教に乗り出した。同会は都市部と辺境地帯を同時に宣教地とし、都市部にはクリオーリョ子弟を対象に学院を創立し教育を担った。

フランシスコ・ハビエル・クラビヘロ (Francisco Javier Clavijero, 1731-87) とフランシスコ・ハビエル・アレグレ (Francisco Javier Alegre, 1729-88) は、共に同時代を生きたイエズス会士であり、メキシコ独立の知的先駆者として称揚され同国でもその名は良く知られているが、後者アレグレ(写真)がヌエバ・エスパーニャ(以下メキシコ)植民地時代史の記録者であるということは、日本では余り知られていない。本書には、イエズス会士がフロリダ半島(1566年)およびメキシコ布教に乗り出した時から、国王カルロス3世によりスペイン領から追放される1767年直前までの、約200年間にわたるイエズス会宣教活動報告が4巻にまとめられている。個々の報告は簡潔ながら、2世紀に及ぶ記録ゆえに各巻500～700頁にわたる重厚さである。「メソアメリカ地域の年表事典(16～18世紀)」として本書を活用する際の利点として、編集者による丁寧な注と、貴重な参考文献が研究を助けてくれる。本稿では1956年にアーネスト・J・バルス (Ernest J. Burrus) とフェリス・スビリャガ (Felix Zubillaga) 両イエズス会士による改訂版に基づき、簡略な史料紹介を試みたい。なお、同書は電子化されており、各4巻は全頁掲載とは限らないが以下のURLにより閲覧可能である。

<https://ia802507.us.archive.org/29/items/historiadelaprov01aleg/historiadelaprov01aleg.pdf>

* 元大阪経済大学教授

<https://ia802504.us.archive.org/19/items/historiadelaprov02aleg/historiadelaprov02aleg.pdf>

<https://ia902506.us.archive.org/32/items/historiadelaprov03aleg/historiadelaprov03aleg.pdf>

<https://ia802302.us.archive.org/3/items/historiadelaprov04aleg/historiadelaprov04aleg.pdf>

本稿ではまず、1. フランシスコ・ハビエル・アレグレについて、2. 本書の構成を簡略に紹介し、最後に3. 本書の活用方法で、筆者が関心を引かれた3点について報告していくものとした。

1 フランシスコ・ハビエル・アレグレとは

アレグレは1729年11月12日メキシコのベラクルスで生まれた。哲学をプエブラ市の王立サンイグナシオ学院で学び、その後メキシコ市で市民法を、アンヘロポリスで神学を修め、1747年3月19日、テボツォトランのイエズス会に入会した。彼はイタリア語、ギリシア語、ヘブライ語、ナワトル語を学び、やがて、歴史、神学、数学、特に古典文学を極めていく。後日、メキシコ市で基礎科目を教えつつフランス語を学んだが、健康上の理由からベラクルスに帰郷し、そこで2年間教鞭をとった後メキシコ市に戻り、神学の試験に合格し司祭に叙任された。病弱な状況は続いたが、やがてハバナで7年間修辞学と哲学を教えた。ハバナを去りメリダに向かい、そこで本書の執筆に向かった。ところが本書の出版が期待された矢先、王令により1767年7月25日にイエズス会士はスペイン領から追放され、この原稿と資料はそのままメキシコに残った。彼は1788年、追放されたイタリアのボローニャ付近で死んだ。彼がボローニャ滞在中に記憶だけで再記録した簡略版は、1841年にメキシコ市でカルロス・マリア・ブスタマンテ (Carlos María Bustamante) により出版された。この簡略版に基づいて北條ゆかり氏が『ラテンアメリカの歴史』(2005:271-272) の中で、イエズス会士が追放される前夜の緊迫した状況を紹介している。

2 本書の構成

本書4巻は、いずれも序章の前に目次と参考文献が配置された編集なので、参照作業の能率を高めてくれる。読者はI巻からスタートしなくとも、百科事典のように関心のある年代や目次説明からエントリーすれば良い。著者アレグレの報告は200年間に及ぶイエズス会の活動報告なので、簡潔すぎて理解が進まぬときは、編集者による脚注が効力を発するし、参考文献を辿れば原典に辿りつくことも可能であろう。

第I巻(総640頁)は1566~1596年の30年間に10年毎に分割し3部構成となっている。イエズス会は1566年から6年の内にフロリダ、メキシコ、ペルーの地域に入り、フロリダ宣教以外は驚くべき成功を収めていく。フェリペ二世はイエズス会士にメキシコで働くことを求め、1572年にペドロ・サンチェスの率いる会士一行がメキシコ市に教会とマシモ、サンペドロ、サンパブロの3学院を創設し、1576年までにオアハカとバツクアロにも学校を創設した。学校経営と海外宣教という2つの任務を進展し、1577年からの10年間にベラクルス、ミチョアカン地方での教育と布教活動を記すと同時に、フィリピンなど東洋への関心を示している。次の1588~1596年の8年間で、メキシコ、プエブラ、サカテカス、シナロア、ドゥランゴ、グアテマラにおける宣教及び教育活動を記し、同時に更なる宣教地の拡大を試み、1594年にはチチメカ人への布教を開始し

た。サカテカスの銀山開発に伴い、進軍してくるスペイン軍に粘り強く抵抗したチチメカ先住民を対象とした宣教は、ゴンサロ・デ・タピア会士のもとで、彼らは村に定住する農民へと変えられた。イエズス会の宣教は都市部と森林地帯で同時に行われ、1600年までにメキシコに7つの学校が開設された。

第Ⅱ巻（総747頁）では、1597～1639年の42年間をほぼ10数年単位に3部に区切り、以下のようにイエズス会活動を報告している。すなわち、1597年から10年間のメキシコ北部周辺部の宣教と学院創設、ヌエバ・グラナダでの宣教（1598年）、トピアおよびパラスでの宣教（1602年）、テポツォトラン、グアテマラ、そしてメキシコの状況を記述している。1607～1619年の期間では、1609年のイエズス会創立者イグナティウス・デ・ロヨラの列福式祝典の模様（後述）、先住民テペワと8人の宣教師の殉教について、1617年には平定化された先住民地区における新たな布教活動や新管区制度を報告している。次の1639年にいたる19年間ではグアテマラやユカタン地方での宣教を報告し、管区全般要覧（1630～1631年）に並び、付録に日本の長崎・西坂の丘における二十六聖人の殉教（1597年）について短い報告がなされている（後述）。

第Ⅲ巻（総502頁）では、1640～1675年の35年間を扱い、1640年からの10年間で、メキシコ北部やカリフォルニア半島の遠征（1640～1642年）と布教、ヌエバ・エスパーニャ副王を兼務したプエブラ司教パラフォクスとイエズス会との葛藤（後述）、グアテマラの学院、疫病、ペスト、ドゥランゴの教会、追放・除名・破門宣告、1648年の管区状況、カリフォルニア遠征、ユカタンの疫病などについての報告がある。1651年から25年間においては、チアパ、テポツォトラン、北部とカリフォルニア、グアダラハラ、メリダ、バジャドリーの布教と学院に関する記述がある。先住民に疫病が蔓延した状況、管区の集住化政策、新たなレドゥクシオン（1674～1675年）などが報告されている。

第Ⅳ巻（総663頁）では、1676-1766年の90年間で二分され、1676～1700年までの35年間におけるソノラやシナロア、さらに奥地のチニバスとチアパ地域の布教活動、カリフォルニア半島やタラウマラ及びピメリア先住民への布教、反乱する先住民ピマなどを記録している。最後の1701-1766年の66年間ではカリフォルニア、ナヤリ、ピメリア・アルタへの布教が記されているが、布教のための経済的資源の欠乏、カリフォルニアの学院、十分の一税訴訟、カリフォルニアの反乱、血塗られた宣教、北部先住民の蜂起、宣教師の殉教などが報告されている。

エウセビオ・キーノ会士（Eusebio Kino, 1644-1711）が作製した地図は正確であることが有名であるが、彼はソノラ、カリフォルニア、アリゾナなど辺境の地に新しいイエズス会の布教ベルト地帯をつくりあげ、牛の放牧場やヨーロッパ産穀物や果物を導入し、先住民の福利を向上させた。また、バハ・カリフォルニアに遠征したイエズス会伝道遠征隊探検家ファン・デ・ウガルテらは、カリフォルニアが島ではなく半島であることを確認した。先述キーノに触発されたファン・サルバティエラ会士（Juan Salvatierra, 1648-1717）はカリフォルニア半島のロレットで最初のミサをあげ、半島内にも点々と布教地帯を形成した。

3 本書の活用

最後になるが、筆者の関心に基づいて索引して得た内容を以下に紹介しよう。

①グアテマラにイエズス会が学院を創立したきっかけとは？

1579年、メキシコ管区長フアン・デ・ラ・プラサ（Juan de la Plaza）神父がペルーへ向かう途中に、グアテマラ議会から植民者子弟教育のためにイエズス会士を派遣して欲しいという要請を受けた。邸宅を会士の居宅用と申し出る者、小麦の提供を申し出る者、名士4人が各自1000ペソを寄進するなどの報告がある（第I巻, 382-383頁）。こうして1606年にグアテマラの名士たちの支援のもとに学院が創設され、オアハカから派遣された神父が授業を開始するに至った（第II巻, 123, 128-130頁）。

②日本二十六聖人殉教（1597年）、およびイエズス会創立者イグナティウス・デ・ロヨラの列福（1609年）祝典に関する報告について第II巻の巻末付録IIIにエステバン・パエスが1597年12月27日にベラクルスからアクアビパ総長宛てに送った書簡の中に「日本の皇帝（Emperador）がイエズス会修道士3人とフランシスコ会修道士6人を磔刑にした」、「関白殿（Quabacundono）がした行為」という簡略な報告がある。また、注1には補足としてパウロ三木（Pablo Miki）、ヨハネ五島（Juan de Goto）、ディエゴ喜斎（Diego Quisai）と3人のイエズス会殉教者の名前が挙げられている（489-490頁）。

また、イエズス会創立者イグナティウス・デ・ロヨラの列福に因み（1609年）、メキシコ市内教会堂の鐘の音、荘厳ミサ、市内のコフラディア役職者たちの登場、美々しい騎兵に伴われた祭典行列、その行列には当時の異端者を揶揄し、ルター派、カルヴァン派、ツウイングリ派などを模したヒガンテ（巨大なはりぼて人形）が練り出している状況、花火の音に交じり物売りの喧騒などの情景が生生きと描写されている（第II巻, 187-191頁）。

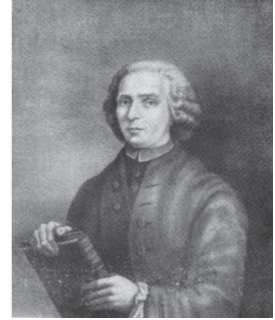
③プエブラ市のパラフォクス図書館（Biblioteca Palafoxiana）の蔵書寄贈者、フアン・デ・パラフォクス（Juan de Palafox, 1600-1659）に関する記録が何かあるか？

パラフォクス司教は暫定的とはいえ、ヌエバ・エスパーニャ副王（1642年）に就くほど聖俗両界に発言力をもった人物であったが、様々な点でイエズス会と見解が対立し、国王への報告をめぐり当時すでに実用化された印刷物を介して相互に中傷しあった状況が報告されている（第III巻, 27-28頁）。なお、アメリカ大陸最初の公共図書館として名高い世界文化遺産パラフォクス図書館は、彼の蔵書（5000冊）寄贈をもとに設立され、パラフォクス司教は2011年に列福された。

以上、本稿は筆者が植民地時代史に関して初学なゆえ、理解が及ばぬ点が多いが、本書の利用方法いかんによっては、メキシコが西洋と東洋を繋ぐうえで極めて重要な地理的位置を占め、当イエズス会記録からグローバルなネットワーク史を理解できるのではないかと考えている。

Francisco Javier Alegre S. J. (1729-1788)

出典： *Historia de la Provincia de la Compañía de Jesús de Nueva España*,
tomo I, 中表紙口絵



参考文献

桜井三枝子

- 2010 『グローバル時代を生きるマヤの人々』、明石書店。
- 2017 「グアテマラ総督領期におけるイエズス会の宣教」アンドラーデ先生追悼論文集編集委員会『グスタボ・アンドラーデ先生追悼論文集』、39-60 頁。
「恩師・尾原先生を偲んで」キリシタン文化研究会『キリシタン文化』研究会会報 149 号、27-32 頁。
- 2018 『グアテマラを知るための 67 章』（編著）第 2 刷、明石書店。
- 2019 「抵抗のイメージ、ソフト・レジスタンス—中米グアテマラ・マヤの事例から」浅香幸枝編著『交差する眼差し』、行路社、229-246 頁。

バンガード、ウィリアム

- 2004 『イエズス会の歴史』上智大学中世思想研究所、原書房。

北條ゆかり

- 2005 「イエズス会士の追放」染田秀藤・篠原愛人監修『ラテンアメリカの歴史』、世界思想社、271-272 頁。

BOLETÍN del

Instituto de Estudios Latinoamericanos
de la Universidad de Estudios Extranjeros de Kyoto

Instituto de Estudos Latino-Americanos
da Universidade de Estudos Estrangeiros de Kyoto

2019

<ARTÍCULOS>

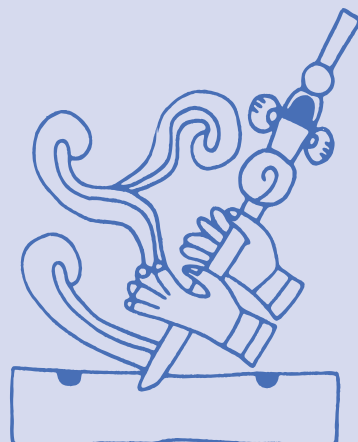
- Rival político de Pájaro Jaguar el Grande de Yaxchilán
..... Akira KANEKO 1
- Elecciones de las autoridades por usos y costumbres en los municipios
indígenas de México
..... Munehiro KOBAYASHI 25

<ESTUDIO PRELIMINAR>

- Estudios latinoamericanos en Japón antes de la Segunda Guerra Mundial (I)
..... Toyoharu TSUJI 49

<RESEÑAS DE LIBROS>

- ¿Qué es un chicano?: *poética de las fronteras*, por Toshiyoshi Imura
..... Takashi USHIJIMA 65
- Francisco Javier Alegre, *Historia de la Provincia de la Compañía de Jesús de Nueva España*, 4 vols., edición de Ernest J. Burrus y Felix Zubillaga, Roma, Institutum Historicum Societatis Jesu, 1956
..... Mieko SAKURAI 69



Vol.

19